



小栗キャップの News Letter

税理士法人オグリ 代表社員 小栗 悟

〒500-8847 岐阜県岐阜市金宝町 1-3 岐阜第一生命ビル 4F

TEL : 058-264-8858 FAX : 058-264-8708

Email: info@otc-oguri.com <http://www.otc-oguri.com>

2013年8月26日(月)

簿記で考えるアベノミクス

簿記で考える「(量的)金融緩和」

デフレ脱却を狙ったアベノミクスの「3本の矢」のうち「第1の矢」(大胆な金融緩和)が他の施策に先行して進められています。「中小企業には全く関係ないよ!」と言われるかもしれませんが、簿記で考えると「日銀」「市中銀行」「企業」のBSが借方・貸方で繋がっていることがわかります

日本銀行BS		市中銀行BS		企業・家計BS	
資産	負債	資産	負債	資産	負債
国債	発行銀行券 (C+V)	現金 (V)		現金 (C)	借入金
	当座預金 (RB)	日銀預け金 (RB)	預金 (D)	預金 (D)	
	政府預金	貸出金			

① → ② →

企業では「預金」というのは資産(借方)ですが、銀行では「預金」は負債(貸方)の位置づけになります。銀行の負債(貸方)を増やして資金を民間に流していこうとする施策が「(量的)金融緩和」となります。

第一の「蛇口」: 日銀の貸方(負債)

日本銀行が供給する通貨のことを「マネタリーベース」といいます。

$$\text{マネタリーベース} = \text{日銀券発行高 (C+V)} + \text{貨幣流通量} + \text{日銀当座預金 (RB)}$$

日銀はお札を発行していますが、硬貨は政府が発行していますので、上記算式のうち貨幣流通量以外の「日銀券発行高」と「日銀当座預金」は日銀がコントロールできる数字です。日銀は国債(資産)を市場購入

する等して日銀当座預金(負債)を増やし、市中銀行に資金を回すことで、「マネタリーベース」を今後2年間で倍増させる予定です(H24末138兆円→H26末270兆円)。

第二の「蛇口」: 市中銀行の貸方(負債)

ただ日銀が資金を銀行に供給しても、民間に回らなければ意味がありません。「銀行を除く民間が保有する現預金の合計」を「マネースtock」といいます。これは民間の現預金を直接カウントする訳ではなく、市中銀行の貸方数値等に着目します。

$$\text{マネースtock} = (\text{現金通貨} - \text{銀行保有の現金 (V)}) + \text{市中銀行預金 (D)}$$

また、マネタリーベースとマネースtockの関係(波及効果)は次のように示されます。

$$\text{マネースtock} = \text{マネタリーベース} \times \text{貨幣乗数 (信用乗数)}$$

バブル時には、この貨幣乗数は13前後と高かったのですが、デフレ経済下では資金需要が少なく、25年5月の貨幣乗数は7.2です。その意味ではアベノミクスの「第2の矢」(財政政策)、「第3の矢」(成長戦略)も金融緩和策の成否の大事な鍵になります。



まだまだ銀行にお金が溜まっている